

越前町議会・令和6年3月定例会一般質問【高田浩樹議員】

(令和6年3月6日 午後1時15分 開始)

○7番(高田浩樹君) このたびの能登半島地震でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、ご遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。また、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧・復興とともに平穏な日常が戻りますことを心より願っております。

それでは、通告書に基づき一般質問をいたします。よろしく願いいたします。

最初に、最新の将来推計人口の見解についてをテーマに議論をしていきたいと思っております。

昨年12月、国立社会保障・人口問題研究所が2020年の国勢調査を基にした将来推計人口を公表いたしました。約6年前に公表された前回の将来推計人口と比較いたしますと、当町の2045年の人口は、前回約1万2,000人だったのに対し、最新の推計では1万3,000人と減少が鈍化しました。

一方で、30歳未満の人口は減少傾向が進む推計になっております。65歳以上の高齢者の人口は2020年が最も多く、一方、85歳以上の高齢者の人口は2040年が最も多くあります。

最新の将来推計人口から人口減少、超高齢化、出生数や生産年齢人口の減少が示唆されていますが、これらのことを受け、当町における課題と対策について町長に伺います。

○議長(佐々木一郎君) 町長。

○町長(青柳良彦君) それでは、高田議員のご質問にお答えいたします。

国立社会保障・人口問題研究所がまとめた日本の地域別将来推計人口2024年推計によりますと、本町の2020年の総人口2万118人に占める15歳以上65歳未満の生産年齢人口割合は52.7%、65歳以上の高齢者人口の割合は35.7%ですが、2045年の総人口1万3,131人に占める生産年齢人口割合44.3%に対して高齢者人口割合は47.3%になり、その割合が逆転する見込みとなっています。また、ゼロ歳から4歳の出生数も2018年推計650人に対し、2024年推計では592人と減少しています。

高齢者人口割合の増加は町税の減収を招き、出生数の減少は交付税の減収を招きます。町税と交付税は町政運営に必要不可欠な財源であり、これらの財源が減少することは行政基盤の弱体化につながります。

我が国の出生率に目を向けますと、人口が長期的に増減せず、一定となる出生の水準である2.07を30年以上にわたって下回っている状態にあります。教育は国家100年の大計と言われてはいますが、少子化対策もまさしく国家100年の大計として取り組まなければ解決できない深刻な問題と捉えています。

一方で、担い手不足も深刻な問題で、情報サービス大手のリクルートの研究機関によりますと、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年には、企業などで働く担い手の不足が全国で1,100万人余りに上るという予測がされています。

職種別では、介護サービス、商品販売、ドライバーなどが不足率の上位を占め、建築、土木、医療従事者がその後続きます。いずれも少子高齢化社会に欠かせない職種であり、対策が急務です。

いずれにしても根本的な人口減少対策は国の政策が重要であると考えています。地方自治体には対症療法的な施策にならざるを得ませんが、トライ・アンド・エラーにより、独自の知見を積み上げていくことが必要不可欠と考えております。

本町の子ども医療費の助成、学校給食費の無償化、高校生の通学定期購入費の助成、大学生等への奨学金返済助成、持ち家新築住宅建設費の助成などの施策は、子育て支援定住促進策として、生産年齢人口減少の抑制や人口減少の歯止めには有効であると考えています。

高齢者人口増加に対しては、サービス付き高齢者向け住宅の整備や住民参加型生活介護支援サービスなど、高齢者の生活支援を行っています。また、財政面では、令和4年9月に越前町公共施設等総合管理計画の改定を行い、統廃合や再編、類似施設の廃止などを行うことで、施設に係る経費の縮減を図ってまいります。

先ほども申し上げましたが、人口減少対策にこれをすればという特効薬はありません。子育てが時間的、精神的、肉体的に余裕を持って育児に臨むことができる環境整備が求められる中、県が進めているライフサポート企業促進奨励金などの取組みも踏まえ、町独自の施策を継続して行っていくことで、全ての世代が生きがいを感じられるような住みよい環境づくりを行い、持続可能なまちづくりに尽力してまいります。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 今、ご答弁で、担い手不足、全国の予測についてありましたけれども、当町の将来推計人口を見ますと、ほかの自治体と比較して、またその担い手となる人たち、そういった方々の特性というのがやはり全国より異なる。また、担い手不足、これの速さは全国よりも速くなると推計を見ると考えられます。今の段階から何らかの対策、試みが大切だと考えます。

次ですけれども、来年度の当初予算は今年度より一般会計で21億5,000万円、17.5%の増、全会計で29億円、15%の増となっております。一般会計の財源の中で特徴的なものを言いますと、財政調整基金繰入金が7億3,000万円で、今年度と比べて5億2,000万円、次年度は増額の予算が組んであります。また、町債は6億6,000万円で今年度より4億3,000万円の増額の予算となっております。

年度によって予算のボリュームが膨らむこともそうでないこともあるかとは思いますが、将来推計人口を含め、長期的な視点での財政運営について町長の所見を伺います。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） お答えいたします。

長期的な視点に立って本町の財政状況を見た場合、ふるさと納税のさらなる拡大など、財源確保策を図るとともに公共施設等総合管理計画に基づく施設の統廃合により、今後40年間で延べ床面積を30%縮減するなどの対策を講じ、将来的な負担軽減と健全化を進めていく必要があります。

また、人口減少及び少子高齢化の進展に伴う町税や地方交付税などの減収を把握しつつ、財政調整基金の確保とさらなる町債残高の抑制を図り、歳入に見合った堅実で持続可能な財政運営に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） ただいまのご答弁で、歳入に見合った堅実で持続可能な財政運営に取り組んでいくとありましたけれども、当町では経常収支比率が昨年度は95.7%、今年度は100%を超える見込みです。100%を超えるということは、経常的にかかる経費を計上の収入が見込まれる一般財源でも賄っていない状態を示します。

実質単年度収支におきましては、直近5年間で3年は収支がマイナスであります。今年度の収支はプラスで、財政調整基金も大きく積み上げてはいますが、内実を見てみますと、ふるさと再生基金の大変大幅な取り崩し、これによりいろいろ回り回って、財調の積立てが可能になったようにも見受けられます。

ご答弁に公共施設等総合管理計画の言及がありました。この計画で示されている公共施設及びインフラ施設の更新コストの見込みによりますと、2030年頃から2035年頃にかけて更新コストが1段も2段も上がる見込みです。もう5、6年先です。これを見ていただければ分かります。これ自体が令和4年9月に改定されたものですので、そんなに古いデータを参照にしてつくられたものではないと思います。

将来推計人口もそうですが、公共施設等の更新コストの見込み、こういったことはある程度想定できます。これらのことから現状、将来像、課題を認識し、それに応じた施策が求められると考えます。

次ですけれども、町が行うキャンプ場などの整備等についてをテーマに議論していきたいと思います。

来年度から悠久ロマンの杜にキャンプ場を整備していく計画がありますが、これまでの経緯とこの計画の概要、予算について伺います。

○議長（佐々木一郎君） 産業理事。

○産業理事（原 雅哉君） それでは、高田議員のご質問にお答えいたします。

悠久ロマンの杜は、旧織田町において森林の保全とレクリエーションや田舎暮らし体験等を通じた都市交流と地域活性化を目的に1992年から1998年にかけて、総工費14億円で整備されました。キャンプ場の整備計画は、当施設の利用者などからアクティビティを求める声があり、2021年度の辺地計画変更時に追加をいたしました。

一方、昨年5月に現在の指定管理者である入尾・箕松活性化委員会から、次年度以降の指定取消しの申し出があり、6月には新たな指定管理者を募集し、募集のあった3社の中から株式会社オーディオテクニカフクイに決定をいたしました。同社は当施設を有効活用する計画の一つとして、キャンプ事業を考えており、町としては辺地事業での対応が可能なことからキャンプ場を整備することといたしました。

今後の整備計画ですが、2024年度にはコテージのトイレ改修を始め、旧パターゴルフ場や朋楽の里の改修、翌年度に整備予定のサニタリー棟の実施設計など、約5,000万円を計画しています。

また、2025年度は茅葺き屋根のガルバリウム鋼板への葺き替えやサニタリー棟の新築など、4,000万円程度を見込んでいます。

さらに2026年度には、茅葺き屋根の葺き替えや除雪機購入など約1,000万円を見込んでおり、来年度以降、3年間の総額は約1億円となります。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 過去に近くに県民いこいの森キャンプ場があり、それが閉鎖して

おりますが、どのような経緯だったのか伺います。

○議長（佐々木一郎君） 産業理事。

○産業理事（原 雅哉君） 県民いこいの森キャンプ場は、1974年に旧織田町により整備されましたが、利用者が減り、施設の老朽化も著しく、合併前から閉鎖した状態でした。2021年に、20年近く放置されたままで危険であったバンガローやトイレを取壊しをいたしました。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 辺地総合整備計画があると思うんですけれども、それが2015年度から2026年度までであることから、その間は辺地債の活用といったことができると考えられるんですけれども、2027年度からはどのような見通しであるのか伺います。

○議長（佐々木一郎君） 産業理事。

○産業理事（原 雅哉君） 入尾・笈松辺地に係る総合整備計画は、2022年3月に計画期間を2026年までの12年間に変更いたしました。辺地対策事業の対象は、計画期間の2026年度までであり、2027年度以降に実施する経費に辺地対策事業債を充てることはできず、今後大きな改修が必要となった場合は一般財源となることから、財政的に非常に厳しいものと思っております。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 2027年度以降の整備、大規模修繕、大きな備品を購入するなど等というのは、これまで活用できていた辺地債がなくなり、これから一般財源、場合によっては有利な起債もあるのかもしれませんが、そういった状況であるということは分かりました。

この事業の整備について、来年度以降、3年間の総額は約1億円程度とおっしゃっていましたが、現在、建設関連の需要が大変増大しておりますし、建築資材の高騰などもございます。

当初の予定や計画以上に、一般論ですが、高騰している傾向にあります。計画されている予算の範囲内で収まるのかどうか、見解を伺います。

○議長（佐々木一郎君） 産業理事。

○産業理事（原 雅哉君） 建築資材高騰も予想はされますが、計画の範囲内で対応していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 整備計画、これを全て今あるのを実施した結果、全体像がちょっと分からないので、どのようになるのか詳細を伺います。

○議長（佐々木一郎君） 産業理事。

○産業理事（原 雅哉君） 今回の整備計画によりまして、コテージのトイレを温水便座に改修するほか、林間広場、現在の芝生広場1.4ヘクタールは外周道路と駐車場を整備して、50組を受入れ可能なキャンプ場とします。

また、現在使用していない旧パターゴルフ場0.5ヘクタールは9区画のキャンプ場に、旧パターゴルフ場の管理棟はサニタリー棟に改修をいたします。

朋楽の里については、朋楽館を土足のままくつろげるようにリフォームし、別館は屋内バーベキュー施設として使用します。

2025年度以降は、新たなサニタリー棟の整備やコテージの修繕、除雪機の購入、茅葺き屋根の葺き替えなどを計画しています。なお、県の施設でありますも

りの学び舎については、野鳥や森林に関する教育の場のほか、いろいろな体験施設として利用する予定で、大規模な改修が必要となった場合は県と協議をしてまいります。

以上でございます。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 整備内容についてですけれども、キャンプ場、外周道路、駐車場の整備、そしてサニタリー棟の新設、これまで使っていた施設のリフォームであったり、使っていなかった施設を利活用するための改修など、そういったことがあるということだと思うんですけれども、どうやって使っていくかですけれども。そこで、来年度から委託先である株式会社オーディオテクニカフクイ、これ以降は同社と呼ばせていただきます、との契約内容、目的やどのように運営や事業を展開していくのかについて伺います。

○議長（佐々木一郎君） 産業理事。

○産業理事（原 雅哉君） 指定管理の目的は、民間事業者が有する能力や手法を活用して、サービスの向上や地域の活性化を図ることで、悠久ロマンの杜については株式会社オーディオテクニカフクイと2024年4月1日から2029年3月31日までの5年間の協定を締結し、年間の指定管理料は840万円を予定しております。今後は、同社が有する国内外のネットワークを生かした集客と各種イベントなどの開催により、事業を展開してまいります。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 同社が委託、指定管理を受ける目的、企業ですからやっぱり企業としての目的があると思うんですけれども、企業としてどういった位置づけなのか、どういった事業の一環として、民間企業さんとして活用していきたいのか、そういったことについて伺います。

○議長（佐々木一郎君） 産業理事。

○産業理事（原 雅哉君） 同社は音響機器メーカーですが、2022年にアウトドアを通した様々な体験で、よりよいライフスタイルを応援したいとの思いからアウトドア事業へ新規参入し、アウトドアグッズの製品開発と販売を手がけ、一方で体験のできる拠点を探しており、悠久ロマンの杜に関心を示されました。

以上でございます。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 最初のご答弁に、同社は当施設を有効活用する計画の一つとしてキャンプ事業を考えており、町として辺地事業での対応が可能なことから、キャンプ場を整備することにしたとありましたけれども、このキャンプ場の整備、同社はどのように関わっているのか伺います。

○議長（佐々木一郎君） 産業理事。

○産業理事（原 雅哉君） キャンプ場等の整備に関しましては、同社の作成されました集客や収益を上げるための提案内容につきまして、十分なすり合わせを行い、町として対応可能なもののみ計画に上げております。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） ご答弁の繰り返しになるんですけれども、同社が作成した提案内容で、町が対応可能な範囲を計画に上げて整備することだったと思いますけれども、先ほどご答弁で、同社はアウトドア事業に関して2022年に新規に参入しましたと。大変私もよく知っている、聞いたことのある企業でありますし、本当に素晴らしい企業だと思うんですけれども、事、アウトドア事業に関しては

2022年に参入したばかりだということではありますが、キャンプ経営の実績や経験、ノウハウなどはあるのか、同社と協議されまして整備はしたものの、先方の都合で継続困難となり得る場合もあり得るのか、この点について伺います。

○議長（佐々木一郎君） 産業理事。

○産業理事（原 雅哉君） 同社は確かにキャンプ場の経営実績はございませんが、施設の運営におきましては、キャンプインストラクターの資格を持つ社員やアウトドア製品の開発と販売に携わる中心的な社員の配置を予定するなど、今後5年、10年と継続していく強い意欲を示しております。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 改めて整理してお聞きしたいんですけども、町の支出として、先ほどのご答弁で指定管理料として年間840万円とありましたが、それ以外にこういったものがあるのか伺います。

○議長（佐々木一郎君） 産業理事。

○産業理事（原 雅哉君） 指定管理料以外の支出といたしましては、建物の火災保険料などのほか、指定管理協定に基づきます備品購入や大規模改修の費用がございます。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 今ほどのご答弁にありました指定管理料などを含めて、この事業における当町としてのランニングコストになると思うんですけども、直近5年間におけるランニングコストについて伺いたいと思います。

○議長（佐々木一郎君） 産業理事。

○産業理事（原 雅哉君） 2019年度以降の5年間に要しました支出総額は1億4700万円で、年平均約2,100万円を要したこととなっております。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 直近で平均ですけれども、もちろん山と谷がありますし、直近5年間がどういう状況だったかということにもよりますので何とも言えないんですけども、取りあえずのランニングコスト、年間2,000万円であったと。直近5年間の平均で言えばということだと思うんですけども、今、新しくいろんなことを整備したり改修したり、規模は大きくなると思うんですけども、将来にわたるランニングコストは従来、これまでと比較してどのような傾向になるのか見解を伺います。

○議長（佐々木一郎君） 産業理事。

○産業理事（原 雅哉君） 今回の施設改修後は、指定管理料を含め毎年1,000万円程度の予算が必要となります。なお、将来的には施設全体の老朽化に伴う修繕費等が発生することが考えられます。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 毎年1,000万円くらいベーシックに、ある意味最低限、ラインとしてあって、その上に多分修繕などいろんな、協定に基づく、先ほど言っていたので、備品購入とか修繕とかそういったものが入ってくるんだと思うんですけども。一般的な話なんですけれども、建物の用途や寿命によるんですけども、公共施設の設計建設から解体撤去に至るまでのいわゆるライフサイクルコストにおける建設段階のイニシャルコストの割合はおおむね20%から25%といわれています。

これはイニシャルコストがライフサイクルコストに占める割合が比較的小さく、75%から80%は維持管理、委託、修繕、更新、解体処分などのランニングコ

ストに充てられるということを意味しています。つまり、建物の種類や役割によって配分も、パーセンテージも変わるんですけれども、ランニングコストはインシャルコストの4、5倍になると。

しかも大きく違うのが整備の場合はいろんな、今回でしたら辺地債ですとか、いろんなそういった起債なり国庫なりの補助が受けられる可能性があるんですけれども、ランニングコストはおおむね一般財源で賄われるという、公共施設に関してはそういう傾向があります。

この事業に関しては町が整備して、指定管理料を出して修繕や更新などを行っていくと。2026年度までは辺地債の活用により整備や修繕などの負担軽減が図られる部分はありますけれども、先ほどもご答弁にもあったように2027年度からはそのようなものがない状態になります。築後約30年近く経つ施設も多く、ご答弁にもあったようにこれから老朽化が進み、今後、修繕費が増えていくと考えられます。

ランニングコストは当然、年度によって増減はあります。それらを平準化すれば、経常的経費とは言わないまでも、ある意味、経常的な経費に近い、そういった側面もあると考えられます。

今回の事業は施設の一部をリニューアルしていくということで、新しい施設、老朽化していく施設、利活用していく施設、様々な状態でいろんな施設が混在していることから、ランニングコストを把握するのは大変かもしれませんが、ある程度の目安をつける、そういったことはとても大切なことだと考えております。

直近の2023年度について、営業日と営業日の茅葺き棟、コテージ棟の稼働率と利用者数について伺います。

○議長（佐々木一郎君） 産業理事。

○産業理事（原 雅哉君） 悠久ロマンの杜は茅葺き棟、コテージ棟ともに毎週火曜日を休園日としており、夏休み期間は無休としております。なお、コテージ棟は毎年、冬期間を休館としていますが、今年のように積雪が少ない場合は指定管理者の判断で営業することもございます。

次に、今年度の稼働率ですが、かやぶき棟5棟で年間稼働率20%、利用者数は1,080人、コテージ棟10棟で年間稼働率16.2%、利用者数は1,620人となる見込みで、年間の総利用者数は2,700人です。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） これからの稼働率、これからキャンプ場、今からやっていくに当たって、どのような稼働率や利用者数を見込んでいるのか伺います。

○議長（佐々木一郎君） 産業理事。

○産業理事（原 雅哉君） 同社の計画では、5年後の2028年度は、茅葺き棟は年間稼働率26%、利用者数は1,400人、コテージ棟は年間稼働率22%、利用者数は2,250人、新たに設置しますキャンプ場は年間稼働率10%、利用者数3,600人で、年間の総利用者数は7,250人を見込んでおります。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） この事業が町民の方々にとどのように寄与していくのか、どのような地域貢献、経済効果が期待できるのかを町長に伺います。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） それでは、お答えいたします。

悠久ロマンの杜にキャンプやバーベキューなどのアウトドア事業を取り入れるこ

とで、地元での食材調達や地元の雇用も生まれてくると考えています。さらに各種イベントの商工業者の出店などにより町全体を盛り上げ、活力が生まれてくるというふうに期待しております。

これらに加え、お越しいただいた方々が越前陶芸村や越前海岸など、町内観光地に足を運んでいただけるという相乗効果が期待されるところでございます。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 先ほど、5年後に年間の総利用者数が7,250人という話がありました。それを基に考えますと、キャンプ場、コテージとかいろいろあるそこでの利用者だけの経済効果というのは、やはりこれは限定的なものではないかなと考えられます。

また、キャンプの場合、日常を離れて自然に触れていく、こういったことがメインでありますから、ホテルや旅館に泊まって観光地を巡るというのとはまた違った傾向であると考えます。ただ、町長もおっしゃられたように、様々な方策により、この施設利用以上の相乗効果、これを生み出すことに期待しております。

この事業のように町民の方々の生活、これとはやはり直接的に関わりのない、関わりが薄い、そういった施設、そういった施設の整備であればこそ、町民の方々に対して丁寧な説明が伴うものだと考えますが、どのように周知や説明をしていくのか、町長に伺います。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） キャンプ場の整備等につきましては、必要に応じて周知や説明をその都度行ってまいりたいと思っております。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） よろしく申し上げます。

次ですが、これから悠久ロマンの杜をリニューアルしていくということについて、これまでのことを含め、どのような課題があり、それをどう分析され、そしてどのような将来の見通しや展望を持っているのか町長に伺います。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） 課題については、町はこれまで需要の発掘ができず、資源を生かし切れていなかったのではと感じております。今回の悠久ロマンの杜のリニューアルは、キャンプという新しい分野を手がけることで新たな客層の獲得が可能となります。また、これまで閑散期であった冬場もキャンプ場を営業することから、1年を通したにぎわいが創出されるものと考えております。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） このキャンプ場の整備をはじめとした悠久ロマンの杜のリニューアル、民間企業との連携、当町ににぎわいをもたらす、発展に寄与していくことを大変期待はしておりますが、この事業において当町と民間企業との連携の在り方、民間企業ですから当然、民間企業のお考え、目的というのがございます。

先ほどのご答弁で、アウトドア事業に新規に参入し、アウトドアグッズの製品開発と販売を手がける一方で、体験できる拠点を探して、そしてこの悠久ロマンの杜の指定管理者として手を挙げたという背景であるということだったと思うんですけども、であるならば、当然、民間企業としてのメリットもあつてのことだと思います。

そんな中で、当町と民間企業はどのように連携していくのか。今回は、当町は同



社の提案を基に対応可能な範囲で整備を行い、そして指定管理料や協定に基づく備品購入、改修、そういったランニングコストも支払っていく、こういった形態であります。

連携の在り方には、その関わり方、負担の在り方、様々なグラデーションがあると思います。冒頭でも議論しましたように、当町の近年の経常収支比率、また実質単年度収支の状況、公共施設等の更新コストの見込み、こういったことを鑑みますと、今後厳しい財政状況になることが想定されています。

繰り返しにはなるんですけども、この事業が発展し、当町に寄与していく、そういったことを期待していますし、その可能性も十分にあると思いますが、一方、当町の現状、また今後のことを鑑みますと、慎重な検証が必要であると考えますが、このことについて町長の所見を伺います。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） お答えいたします。

今回の悠久ロマンの杜の整備は、お客様へのサービス向上と何度も足を運んでいただけるような施設とするため、総合的観点から判断し、キャンプ場を整備することといたしました。また、新しい指定管理者による施設運営は、これまでにない新しく斬新な提案や発想で多くの若者を呼び込み、この施設だけでなく、地域、そして越前町を盛り上げてくれるものと期待しております。

町としましては、今後運営状況や経済効果など、様々な角度から実情を把握し、必要に応じ、より充実した施設の活用方法を株式会社オーディオテクニカフクイと共に検討してまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 結びになるんですけども、2021年6月の一般質問、これは青柳町長が就任して初めての一般質問を私がさせてもらった時のことなんですけれども、このときにも公共施設等総合管理計画についての議論をしまして、その際の町長のご答弁をそのまま引用させていただきます。

施設にはイニシャルコストとランニングコストがありますが、このランニングコストは施設が存在する限りかかってくる費用であり、数十年単位で累積することになり、イニシャルコストと比較して何倍もの大きな金額になります。このように施設は建設から数十年運用するまでの間に莫大な費用が投入されることから、効率的な施設運用のために自然と経営的な視点が重要となりますと述べられていました。誠にもっともなことだと思います。

そして同じく2021年6月の一般質問で、町長に目指す姿をお聞きしました。ご答弁をそのまま引用させていただきます。

目指す姿として、少子高齢化、人口減少がもたらす様々な問題が山積している中で、今、何が最も必要なのかを見極め、厳しい現実の中であっても小さくなること、縮むこと、退くことを必ずしも否定的に捉えるのではなく、真に必要なものを選択、集中し、生活のしやすさを追求することによって、小さく賢く成長していくことが今後のまちづくりのあるべき姿であると考えておりますと述べられておりました。これからより一層、このような目指す姿が求められてくるのではないのでしょうか。

これで私の一般質問を終わります。

（午後1時59分終了）